

復興道路・復興支援道路

震災後、新規事業化した19区間が全て着工します
～ 相馬福島道路 霊山～福島が9月28日に着工 ～

東日本大震災の発生から3年半が経過し、各地域で復興への取り組みが本格化しています。そのような中、昨年度事業化した復興支援道路の相馬福島道路 霊山～福島において、この度、改良工事に着手する運びとなりました。

今回の工事着手により、震災後、国による直轄事業として新規事業化した19区間全てにおいて、工事に着手することとなります。被災地の一日も早い復興と、復興道路・復興支援道路の1日も早い開通を目指し、事業を推進して参りますので、引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

(参考)

○相馬福島道路 霊山～福島 起工式

1. 日時：平成26年9月28日（日） 午前10時より
2. 場所：福島県伊達市保原町大柳 地内
3. 主催：福島県、伊達市、桑折町、国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所
※式典内容、場所等詳細については、別添の記者発表料をご確認願います。

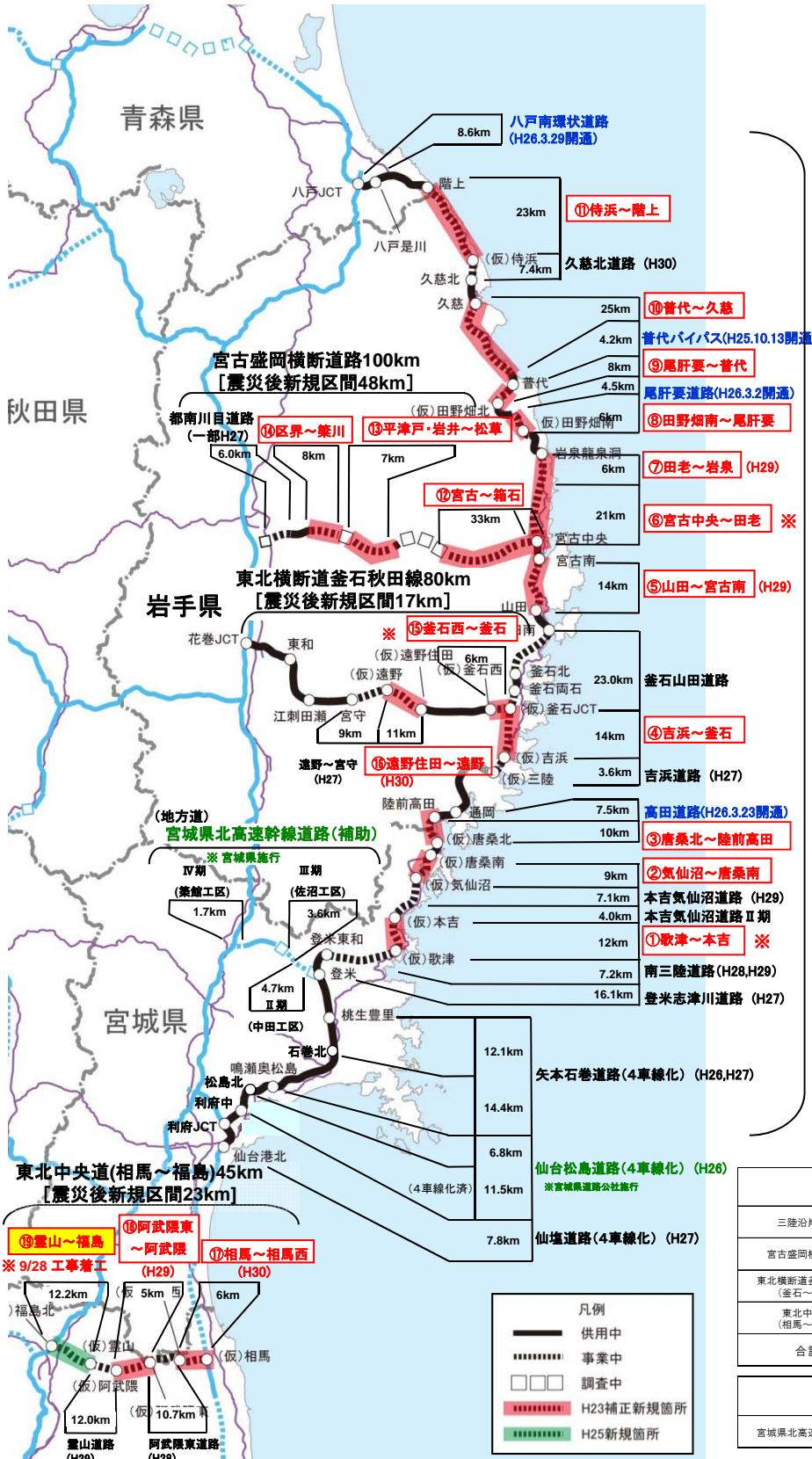
<記者発表先：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会、岩手県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ>

問い合わせ

国土交通省 東北地方整備局 TEL:022-225-2171(代)
道路部 道路計画第一課 課長 ^{よねざわ}米澤 明男 (内線4211)
課長補佐 田中 誠柳 (内線4212)

復興道路・復興支援道路の整備状況

- ・復興道路・復興支援道路の計画延長は**584km**（震災後新規区間**236km**）。現在までに**214km**が**開通**しています
- ・**9月28日**の東北中央道 霊山～福島**の工事着手により、震災後新規事業化した19区間**（H25新規1区間）が**全て着工**します
- ・今回着工する**霊山～福島**（L=12.2km）は、平成25年5月の新規事業化後、約1年4ヶ月で工事着工の運びとなりました



三陸沿岸道路
359 km
「震災後新規区間148 km」

- 注1 事業区間名の赤囲みは震災後新規区間
- 注2 事業区間名の赤文字は、震災後新規区間のうち、工事着手済み区間
- 注3 「※」は新規事業化後1年以内に着工した区間
- 注4 ()は開通予定年度

区間名	計画延長	開通延長	事業中延長	開通見通し公表延長	
				うち震災後新規	公表延長
三陸沿岸道路	約 359km	152km	207km	148km	56km
宮古盛岡横断道路	約 100km	8km	58km	48km	3km
東北横断道釜石秋田線(釜石～花巻)	約 80km	54km	26km	17km	20km
東北中央道(相馬～福島)	約 45km	0km	45km	23km	34km
合計	約 584km	214km	336km	236km	113km

区間名	計画延長	開通延長	事業中延長	開通見通し公表延長	
				うち震災後新規	公表延長
宮城県北高速幹線道路	約 30km	9km	11km	11km	5km

(H26.8月末現在)



相馬福島道路(霊山～福島)「起工式」のお知らせ
～相馬福島道路の最後の区間で工事着手～

相馬福島道路(霊山～福島)は、平成25年度より事業着手し、復興のリーディングプロジェクトとして早期開通を目指し、地域と一体となって事業を進めております。

霊山～福島は、復興支援道路として、これまで調査設計、用地取得を進めてきたところですが、この度、新たに工事に着手する運びとなりました。

また、本区間の工事着工により、相馬福島道路の全区間とともに、東日本大震災後に復興道路、復興支援道路として被災3県で新たに事業化された19区間の全てで工事に着手することになります。

つきましては、被災地の一日も早い復興と工事の安全、早期完成を祈念し、起工式を執り行うこととしましたのでお知らせします。

相馬福島道路は、常磐自動車道と東北縦貫自動車道を結ぶ約45kmの自動車専用道路(無料)であり、東日本大震災からの早期復興を図るリーディングプロジェクト(復興支援道路)として位置づけられています。

また、相馬福島道路の開通により、平時においては地域の暮らしや産業を支えるとともに、災害時には緊急輸送道路としての信頼性向上が期待されます。

1. 日 時:平成26年9月28日(日) 午前10時00分～
2. 場 所:伊達市保原町大柳地内(別紙参照)
3. 実施内容:挨拶、来賓祝辞、事業経過報告、鍬入れ等
4. 主催者:福島県、伊達市、桑折町、福島河川国道事務所

※取材について:報道関係者の方は、スタッフが駐車場及び席にご案内いたします。

発表記者会〈福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ〉

【問い合わせ先】

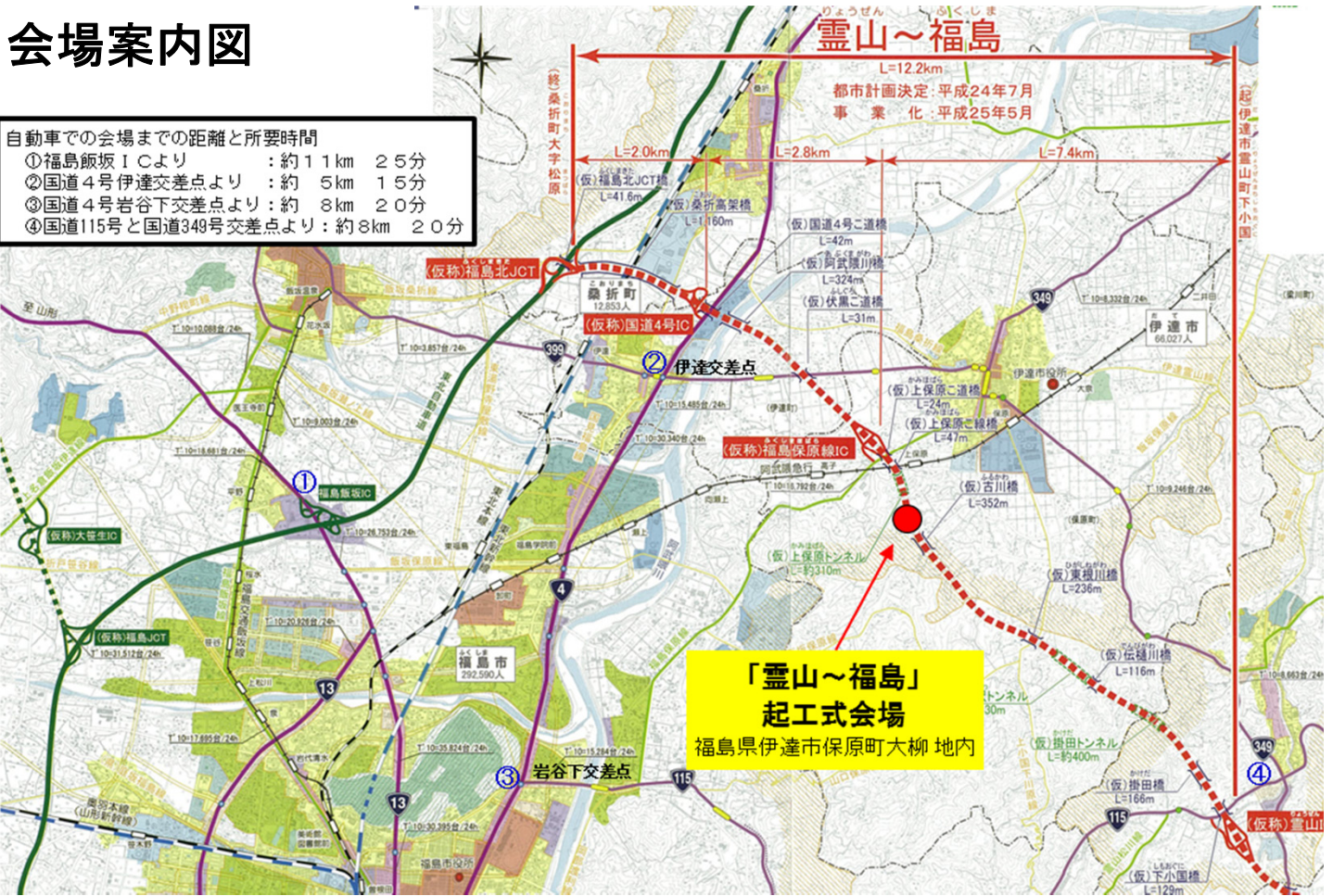
国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所
福島県福島市黒岩字榎平36 TEL024(546)4331(代)

副所長(道路) あかさか ひろし 赤坂 浩 (内線205)
工務第二課長 ししど ひでお 宍戸 英雄 (内線411)

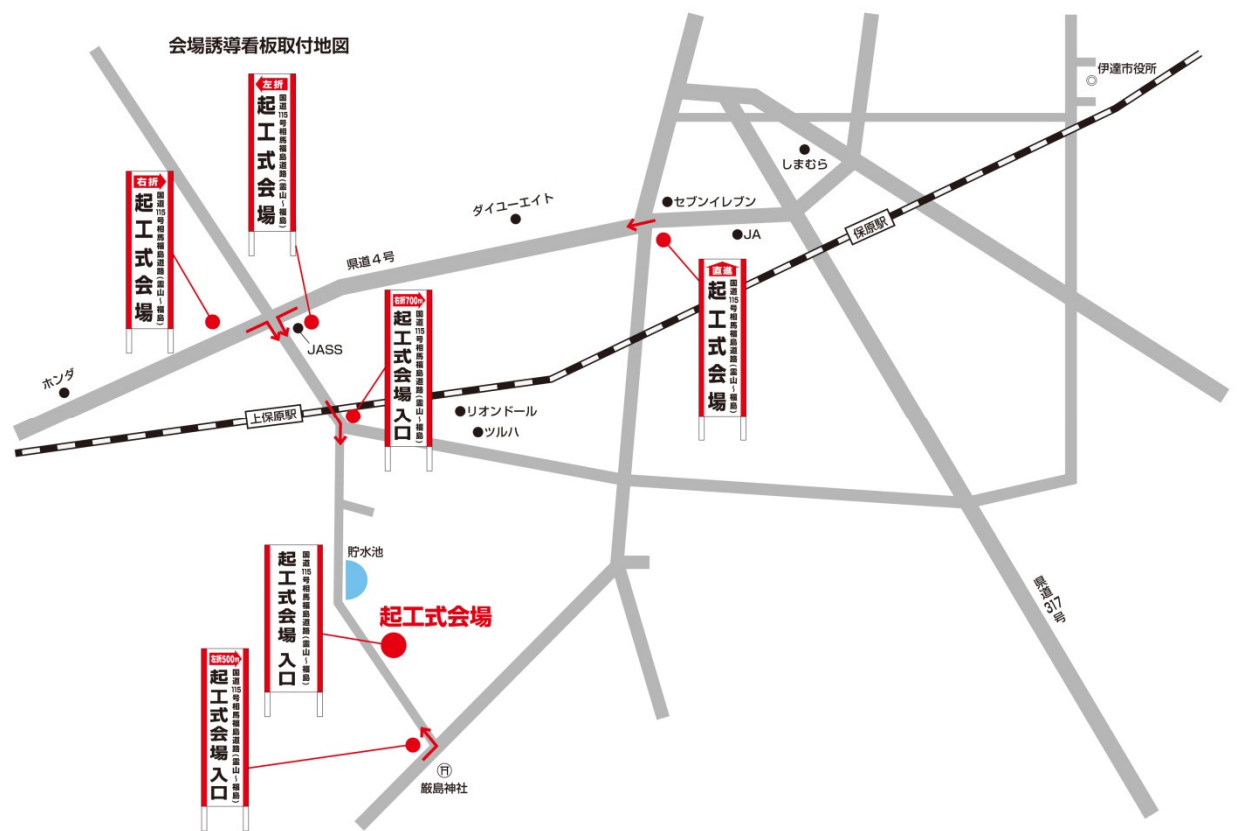
会場案内図

自動車での会場までの距離と所要時間

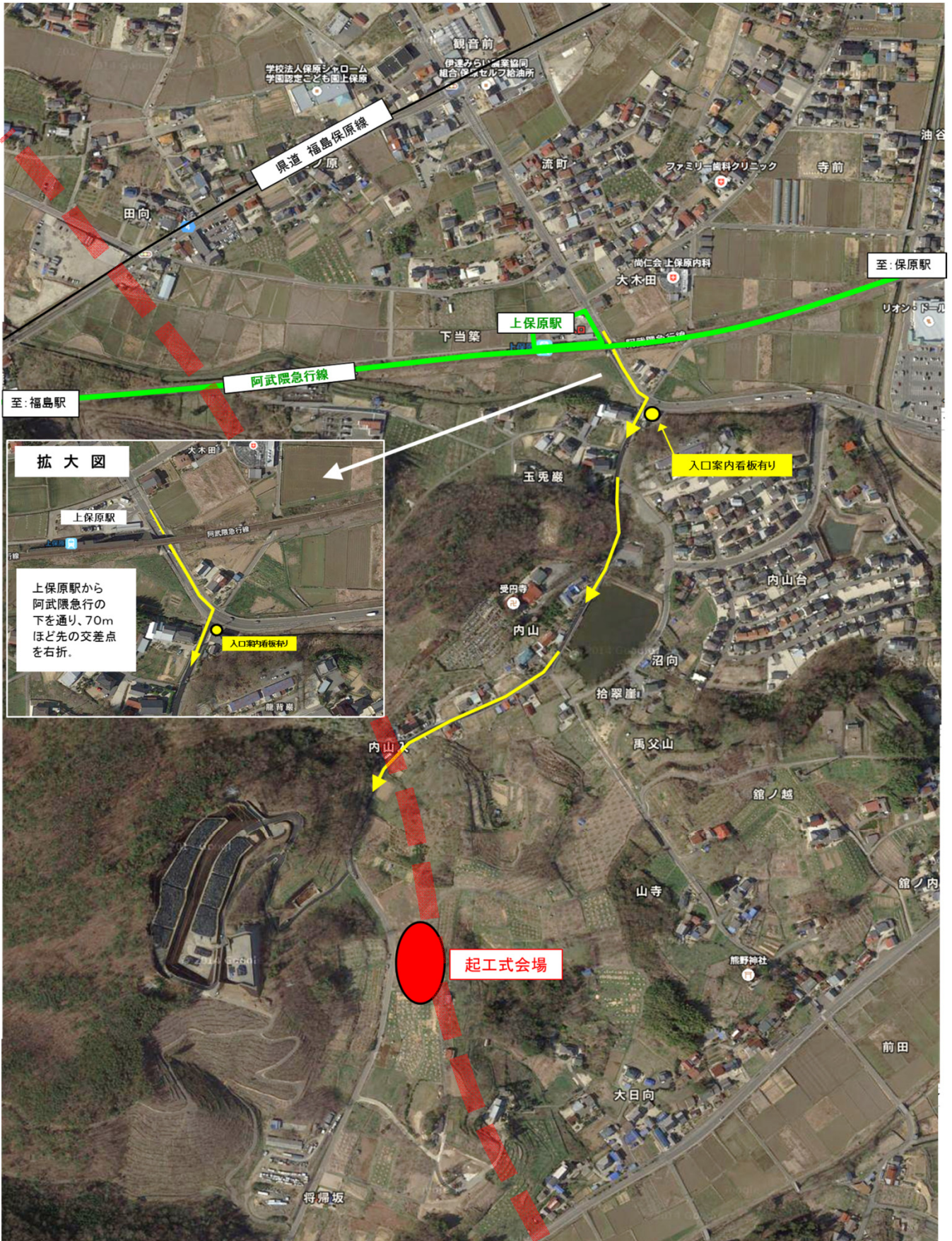
- ①福島飯坂ICより : 約 11km 25分
- ②国道4号伊達交差点より : 約 5km 15分
- ③国道4号岩谷下交差点より : 約 8km 20分
- ④国道115号と国道349号交差点より : 約 8km 20分



看板取り付け位置



会場までの経路

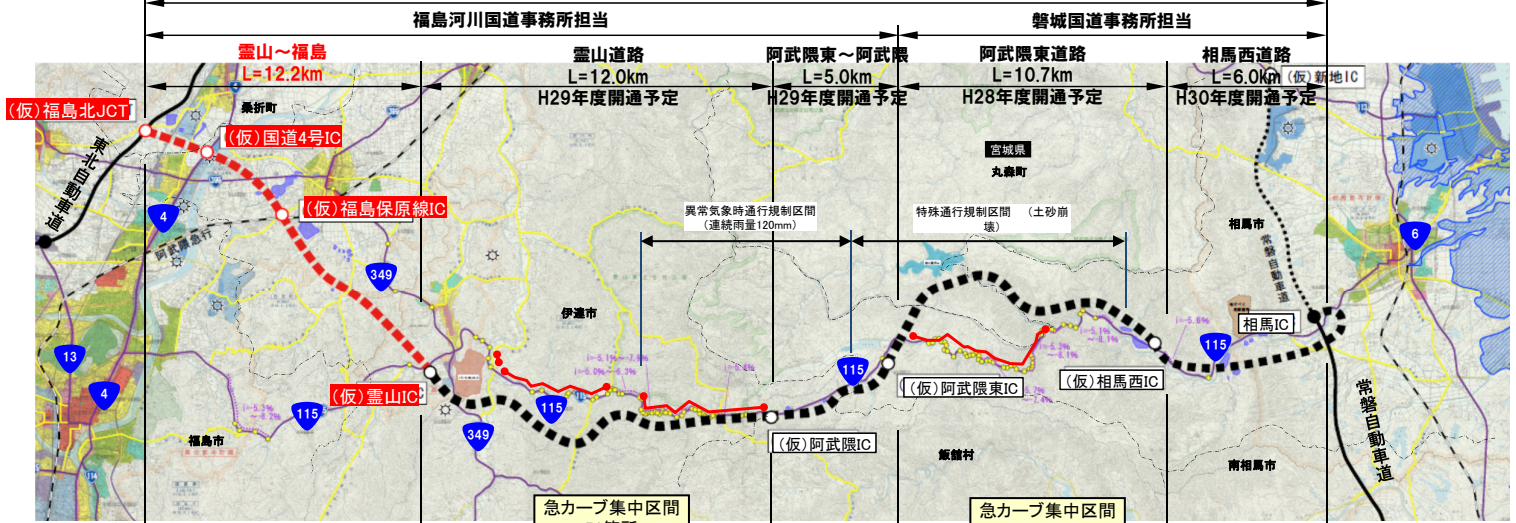


【復興支援道路】 相馬福島道路の概要

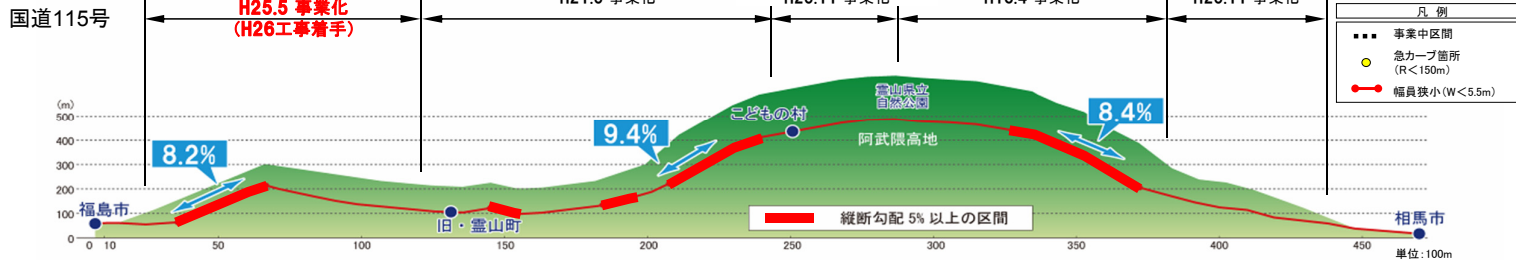
相馬福島道路は、常磐自動車道と東北自動車道を結ぶ約45kmの自動車専用道路(無料)であり、東日本大震災からの早期復興を図るリーディングプロジェクトとして位置づけられています。

【平面図】

相馬福島道路 L=約45km



【縦断図】



整備効果① 災害発生危険箇所を回避し、緊急輸送道路の信頼性を確保

- 国道115号は、大雨による事前通行規制や自然災害等により通行止めが頻繁に発生 (通行止14回/15年)
- 相馬福島道路は、大規模災害時においても寸断されない強靱で信頼性の高い道路ネットワークを形成

▼ 相馬市～福島市間の緊急輸送道路は国道115号のみ



- 緊急輸送道路 (第一次確保路線)
- 防災上の対策が必要な箇所 (26箇所)
- 通行止リスク箇所 (通行規制区間)
- 津波浸水被害エリア

▼ 落石等により寸断された国道
 国道115号相馬市山上地区 (H18年6月)



▼ すれ違いが困難な狭小幅員



整備効果② 迅速な救急搬送で、安全・安心な住民生活に寄与

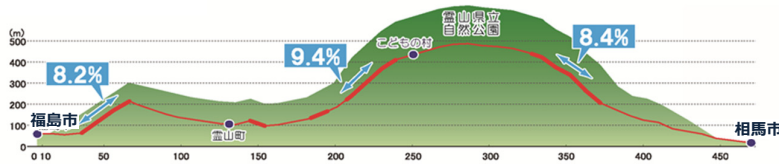
- 相馬地方広域消防本部圏（相馬市、南相馬市、新地町）における救急搬送先は、県立医大付属病院が約8割
- 相馬福島道路は、迅速かつ安定的な救急搬送を実現し、安全・安心な住民生活に寄与

▼国道115号の急勾配・急カーブ区間

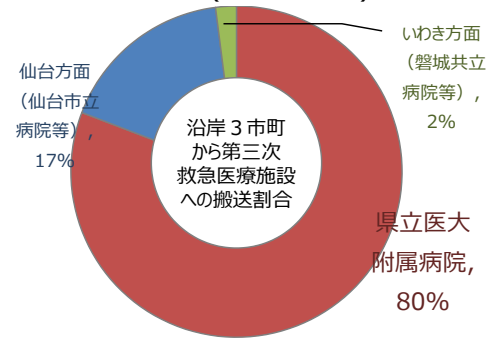


※所要時間
相馬市役所 ↔ 県立医科大学附属病院 間

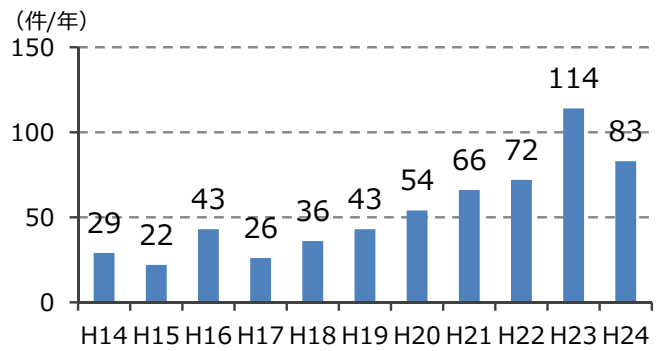
線形不良箇所 (R < 150m)
N=103箇所



▼沿岸3市町から第三次救急医療施設への搬送割合(H21~H24)



▼沿岸3市町から県立医大附属病院への搬送実績

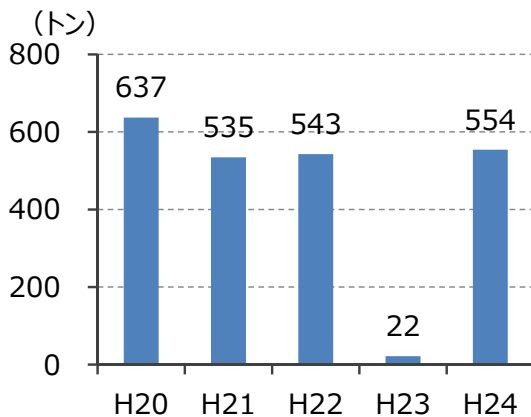


資料：相馬地方広域消防本部

整備効果③ 相馬港を活用した輸送効率化で、企業活動の活性化を支援

- 相馬港の取扱貨物量は東日本大震災以前と同程度まで回復しているものの、企業が集積する内陸部との連携が課題
- 相馬福島道路は、相馬港を活用した輸送効率化を図り、企業活動の活性化を支援

▼取扱貨物量推移（相馬港）



▼相馬港荷下ろし風景



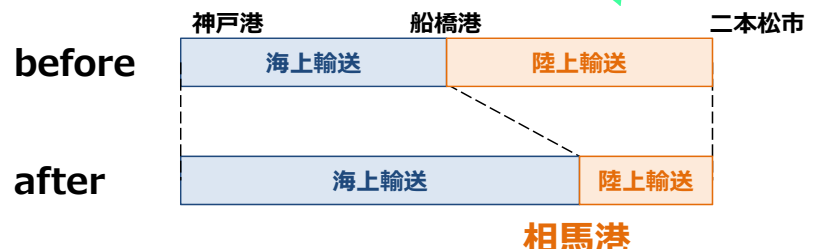
《輸送コスト削減の事例》

鑄造用並びに製鋼用鉄源を扱う二本松市のI社は、銑鉄の輸送にあたって相馬港を活用し、輸送費の安い海上輸送をメインの輸送方法に切り替えることで、大幅なコストダウンを実現



2,000円/tのコスト削減

輸送方法の切り替えイメージ



相馬港

出典：福島県相馬港利用促進協議会HP